

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 肘頭骨折に対する鋼線締結法の術後合併症の検討 』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 整形外科 職位・氏名 教授 池上 博泰

【試料・情報の利用目的】

2000年4月～2023年10月までに東邦大学医療センター大橋病院整形外科において、肘頭骨折の診断で手術を施行し、術後1ヶ月以上経過しレントゲン撮影を行った方おおよそ30名程度を対象としています。

取得した試料・情報は肘頭骨折に対し行った手術の術後合併症の評価をすることを目的とした研究に利用します。肘頭とは机に肘をついた際に接触する部分の骨のことです。肘頭骨折の固定に使用した金属が抜けてくることをback outと言います。Back outが生じることで骨折が癒合しなかったり、皮膚に干渉したりするためback outがなるべく生じない固定方法の工夫が必要となります。Back outが生じた症例を検討し傾向を調査します。

この研究で得られる成果は、手術成績の向上や新たな手術手技の開発につながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報: 病歴、診療の治療歴、副作用等の発生状況、個人情報 画像検査 等

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年1月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当せず

【試料・情報の取得方法】

対象者: 2000年4月～2023年10月までに東邦大学医療センター大橋病院

整形外科において、肘頭骨折の診断で手術を施行し術後1ヶ月以上経過したレントゲン画像を有すおおよそ30名程度

方法: 診療録(カルテ)、画像データから抽出し解析します。術後1,3,6,12ヶ月のレントゲン画像で評価を行います。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者: 池上博泰 役職: 教授

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院/整形外科 池上博泰

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2024年2月29日までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。代諾者でも可能です。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 整形外科

職位・氏名 教授 池上博泰

電話 03-3468-1251 内線 2032